

水稻もち新品種「もちむすめ」の施肥法

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成15年に本県奨励品種として採用された晩生の糯品種「もちむすめ」（系統名「東北糯175号」，普及に移す技術第78号）は、本県の主力もち品種「みやこがねもち」よりも倒伏に強く，玄米品質が安定しているため，高品質もち米の供給に貢献できると期待される。高品質「もちむすめ」を安定生産するための施肥法の目安が得られたので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 基肥窒素施用量は，「みやこがねもち」慣行と同程度の4kg/10aとし，減数分裂期に窒素成分で2kg/10a程度追肥を行う。減数分裂期追肥は，玄米千粒重の増加による増収効果がある。（図1，表1）
- 2) 「もちむすめ」は「みやこがねもち」よりも倒伏に強いため，玄米品質は安定している（図2，図3）。しかし， m^2 当粒数が35千粒を超えた場合，青未熟粒の増加等により玄米品質が低下する（図3）。粒数過剰を避けるためには，基肥量の増加や幼穂形成期追肥は避ける（図1）。

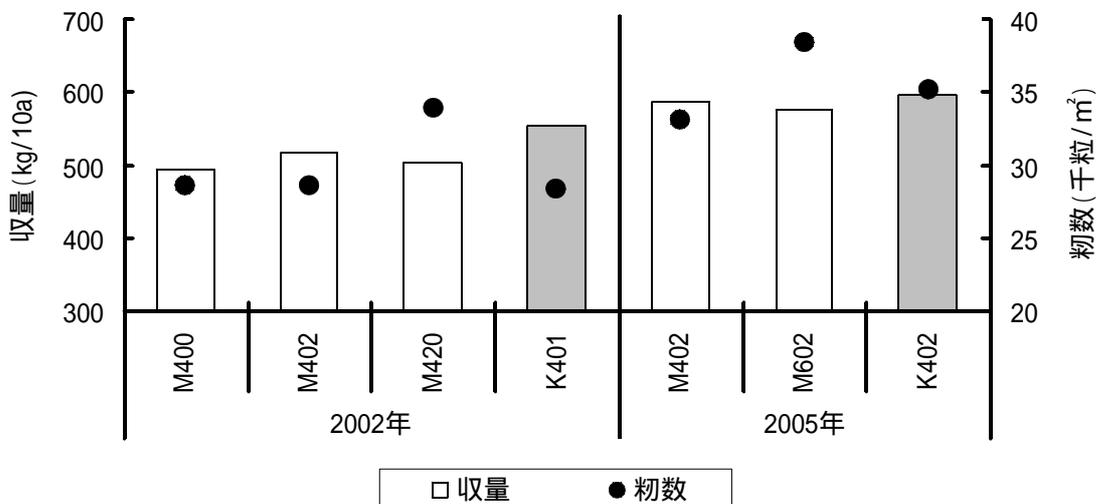


図1 施肥と収量及び粒数の関係（2002年及び2005年）

注1) 区名は，M:もちむすめ，K:みやこがねもち，数字は窒素施用量(基肥-幼形期-減分期の順，kg/10a)

注2) 収量は，1.9mm以上の玄米。

3 利活用の留意点

- 1) 「もちむすめ」の特性については，普及に移す技術第78号を参照のこと。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

宮城県古川農業試験場水田利用部 新品種栽培法の早期確立(もちむすめ) 平成14~17年度

2) 参考データ

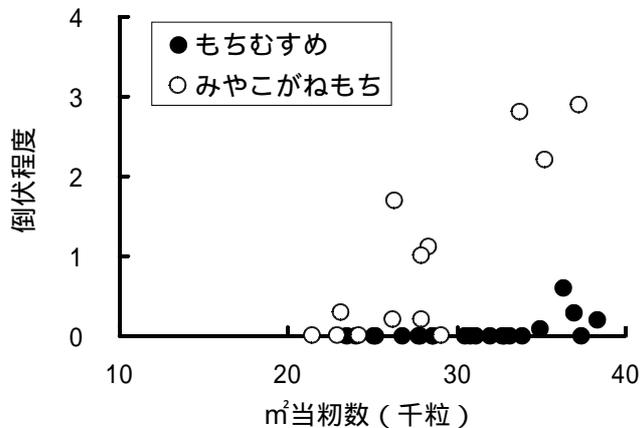


図2 籾数と倒伏程度の関係(2002~2005年)
注)倒伏程度は0(無倒伏)~4(完全倒伏)の5段階評価。

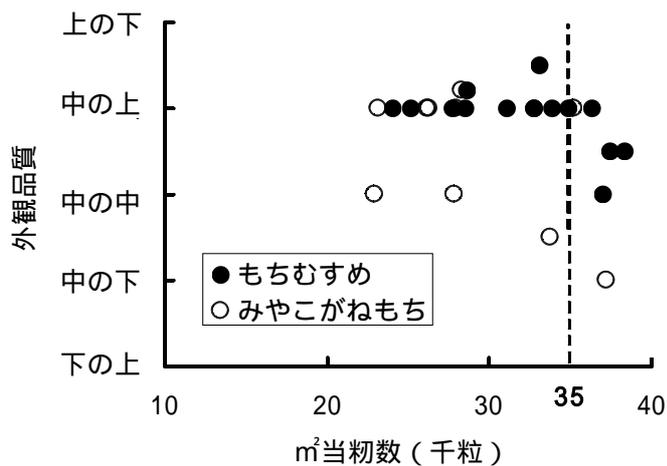


図3 籾数と玄米外観品質の関係(2002,2004,2005年)
注)玄米品質は上の上~下の下)の9段階評価。上の上は農産物検査の一等,中の上は二等,中の中は三等に相当。

表1 施肥による収量構成要素の比較

年次	品種	施肥窒素量(kg/10a)			収量 (kg/10a)	穂数 (本/m²)	籾数 (千粒/m²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	玄米品質 (1-9)
		基肥	幼形	減分						
2002	もちむすめ	4	0	0	495	345	28.5	82.6	21.0	4.0
		4	0	2	518	345	28.6	82.3	22.0	3.8
		4	2	0	504	388	33.9	70.3	21.1	4.0
	みやこがねもち	4	0	1	554	364	28.3	86.2	22.8	3.8
2005	もちむすめ	4	0	2	587	357	33.1	79.7	22.3	3.5
		6	0	2	574	404	38.4	68.4	21.9	4.5
		4	0	2	597	401	35.2	81.5	22.3	4.0

注1)1.9mm以上の玄米。

注2)玄米品質は1(上の上)~9(下の下)の9段階評価。3は農産物検査の一等,4は二等,5は三等に相当。

3) 発表論文等 なし